

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成 27 年度第 6 回相模原市総合計画審議会				
事務局 (担当課)		企画政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 0 3 (直通)				
開催日時		平成 27 年 10 月 30 日 (金) 18 時 00 分 ~ 20 時 20 分				
開催場所		相模原市役所本庁舎本館 2 階 第 1 特別会議室				
出席者	委員	8 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	8 人 (企画部長 他 7 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	2 名
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		開会 1 議事 (1) 地方版総合戦略素案について (2) その他 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり

(委員の発言、 会長の発言、 事務局の発言)

開会 齋藤企画部長

1 議事

吉田会長の進行により議事に入った。

(1) 地方版総合戦略素案について

本日の議事 (1) 「地方版総合戦略素案について」事務局から説明願いたい。

事務局より資料 1 「(仮称) 相模原市まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン (案)」、資料 2 「(仮称) 相模原市まち・ひと・しごと創生 総合戦略 (素案)」の説明が行われた。

議事 (1) について質問等があればお願いしたい。

人口ビジョンと総合戦略はどのような関係にあるのか。

人口ビジョン「第 2 章相模原市民の意識分析」のアンケート結果は、非常に興味深いものであったが、このアンケート結果と総合戦略の重点プロジェクトとの結びつきが弱い印象である。この結びつきをわかりやすく表現しないと市民には伝わらない。たとえば、子育ての経済的な不安の解消が「雇用促進プロジェクト」に、居住地域への評価の向上が「少子化対策プロジェクト」につながっているというようにアンケート結果と施策の関連性を表現すると伝わりやすいのではないか。

基本的にはアンケート結果を分析して重点プロジェクトを決めたものである。表現方法については検討したい。

アンケート結果によると、地域での多様な人間関係 (つながり) が暮らしやすさにつながっており、また、自然が豊かなことも相模原市の魅力と分析できる。このようなアンケート結果の分析をもとに戦略が考えられていると思うので、アンケートで発見したことをもっと表現したほうが良い。

アンケート結果から課題を分析して戦略を作成しているが、説明が足りない部

分がある。表現方法については検討したい。

中山間地域対策プロジェクトの地域コミュニティ維持の視点は、津久井地域だけの問題ではなく、南区、中央区など、市内全域に関わる問題である。

津久井地域は、すでに人口減少が始まっているため、早急に対応する必要があることから重点プロジェクトとしている。地域コミュニティの維持は全市的な問題であると認識しているが、まずは津久井地域という構成になっている。

南区、中央区もこれから人口減少が始まり、そのスピードはますます加速する。このため、早いうちから対策が必要と考える。

中山間地域対策プロジェクトについて、小さな拠点「コンパクトビレッジ」の考え方が示されているが、高齢者が地域に住み続けられる仕組みについてのアイデアがもう少しあるとよい。

また、少子化対策プロジェクトについては、出産、子育て等の対策が中心となっているが、子どもから高齢者までのライフサイクルすべてにリンクさせて多世代の居住都市を目指すような視点があってもよい。

特に津久井地域は、人口減少に伴い限界集落化する地域が発生する可能性がある。コンパクトビレッジは、その対策として既存の都市基盤がある地域を拠点として位置づけ、残していく考え方である。また働く場所を増やして交通ネットワークで結んでいくことも考えている。

また、少子化対策は、総力を挙げて取り組むべきものと考えており、広い意味で高齢者対策も含まれている。しかし本戦略では、出生率向上などの少子化対策の視点が強く出ているものである。

人口シミュレーションによると、津久井地区についてはコンパクトビレッジで対応できる人口規模かもしれないが、相模湖、藤野地区は、コンパクトに集約しても成り立たない人口規模になる可能性があるので注意が必要である。

総合計画で設定した50施策を総合戦略にすべて盛り込んだことにより特徴がなくなっている。重点プロジェクトの表現方法は、もっと象徴的でよいのではないか。元気が出るイメージで表現したほうがよい。

総合戦略素案は、総合計画の50施策を人口問題と関連させる構成になっている

るが、施策の中には、人口問題とあまり関連がないものがある。たとえば文化の振興であるが、文化の振興と人口問題のイメージが結びつかない。

先進国では、イギリスとフランスが少子化を経験している、ロシアは出産に対して現金を支給したことにより人口が増加傾向に転じているなど、諸外国の先進事例から施策を考えるのであれば説得力が増すのではないか。

人口のデータ分析については、転出しようとしている人や転入しようとしている人にアンケートした方が良いのではないか。

雇用促進プロジェクトについては、若い人をひきつける魅力が必要である。今の若い人が、興味を持つコンテンツが必要ではないか。

津久井地域の雇用対策について、たとえばインターネットを使って自宅で仕事をすることを想定すると、そもそもネットワークが脆弱だと起業すらできない。そういったインフラ整備も課題となってくるのではないか。

アニメや宇宙関連など、若い人が魅力に感じる産業分野の振興があってよい。ターゲットを明確にする必要がある。

紙面から戦略が具体的にイメージできないため、すこし平板な印象である。相模原独自の立体感、具体性がほしい。

雇用促進プロジェクトについてはターゲットを明確にする必要がある。ターゲットが若者か高齢者かで状況が変わってくる。

少子化対策プロジェクトについては、いくら対策を考えても解決できないのではないかと思ってしまう。今までと違う尺度が必要である。少ない人口で幸せに暮らす方法を考えてもよいのではないか。

考え方を切り替える時期にある。拡大思考からの脱却が必要である。

個人的な実感ではあるが、晩婚化が進んでいると感じている。30歳を過ぎて結婚する人が多く、急いで結婚しなければという危機感はない。

自分自身、子どもを生むまでは、子育ての楽しさを知らなかった。

子育ての楽しさを知ってもらうことも重要ではないか。

なぜ子どもを生まないのか、結婚しないのか、調査したほうが良いのではない

か。

「人口ビジョンまとめ」にある「取組結果を左右する危機感の共有」という表現は、あまり良い表現ではない。

「子どもを生んで育てることは楽しいこと」「大変だけどやりがいのあること」という視点の表現がよいのではないか。

文化の視点から住みたい街を選ぶ感覚は重要である。

公民館等の子育てサークルなどを見ていると子どもを育てている親の姿が楽しそうに思える。こういった施設が充実しているのは、相模原市の利点でもある。これに高齢者も楽しんでいる姿が加わると、すべての世代がつながり、循環しているイメージができる。

公民館等での子育てに関する取組や高齢者の見守りなどについては、市としても様々な取組をスタートさせているところである。

自然増対策と社会増対策の大きく二つに分けて対策を検討しているが、それだけではないのではないか。

人口ビジョン(概要)の「5 人口減少対策に向けた政策の方向性」-「2 転出超過の抑制(社会増)にむけた取組」-「市民の生活満足度を高める取組」については、社会増と自然増の両方に関係しており、むしろ3番目の対策として「快適な都市空間を形成していく」あるいは「住まいの快適性を高める」という視点で定義してよいのではないか。

相模原市にとって高齢化の影響が大きく現れるのは、団塊世代が75歳以上になるタイミングであり、長期で見ると団塊ジュニアが高齢者になるタイミングである。

このため、高齢化を数字で表す場合、比率より増加数で見たほうがよい。

高齢化のスピードが遅ければ、対処の仕方があるが、スピードが早いと高齢者対策が後手に回ってしまう。大切なのは、割合ではなく、高齢者数が急増する時期がいつなのかを知ることである。人口があまり減らず既存の財政需要のまま介護医療等の費用が増大するタイミングがいつなのかを知ることが重要である。

また、全体として人口を増やす視点の施策が多いが、高齢者対策の視点も必要である。高齢者の参加、支援等の取組を立体的に構築する必要がある。

コンパクトビレッジについては、津久井だけの対策ではない。南区も中央区もなるべく早い段階から人や施設等を集約する必要があるのではないかと。東京都23区でもコンパクトシティとネットワーク化が議論されている。その意味でも南区、中央区にも必要な考え方である。また、地域のつながりの希薄さを解消する視点も必要である。

指標についてであるが、「基本目標ごとの目指す姿」の目標と「基本目標に基づく施策の目標値」が同じでよいのか。

論理的に考えれば、施策の目標が達成されることが、目指す姿の達成につながる形がよい。指標の重複は見直したほうがよい。

人口ビジョン概要に「人口減少は全国と比べ10年程度遅れてやってくる。」という表現がある。人口が減るのはたしかに10年後かもしれないが、高齢者人口は急増している状況である。若者がたくさんいるイメージではなく、10年遅れだから安心という印象を持たれないような表現にした方がよい。

出生率向上への取組強化について、「継続的にコツコツと多様な主体と密接に連携しながら」という表現があるが、連携先は「主体」だけでなく「分野」もある。また、相模原市は連携都市圏の検討はされないのか。都市間連携があるなら表現されたい。

全体的に施策が縦割りである。庁内で連携して取り組むイメージが足りない。総合戦略に施策名がそれぞれ掲載されているが、個々の施策を課題ごとにまとめるなど、目的を明確にして連携して進めていただきたい。

また、民間企業等と協働して政策立案をしていくことも検討されたい。

計画は、すべて財源が有限であることを前提にした財政フレームに裏付けられたものでなければならない。これからは、従来の総合計画のような総花の夢は描けない。しっかりした財政フレームに当てはめ、施策を検討していく必要がある。

たとえば、経常収支比率や起債総額等の財政の目標とセットで考えていかなければならない。

(2) その他

事務局から総合計画に係る施策の実施状況に関する建議書について報告がある

ので説明願いたい。

資料3「施策の実施状況に関する建議書」が10月23日に市長に手渡された旨説明

他に意見等はないようなので、本日の議事は終了とする。

閉会 小林企画政策課長

以 上

相模原市総合計画審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	荒井 容子	法政大学社会学部社会学科		出席
2	岡本 真佐子	青山学院大学地球社会共生学部 地球社会共生学科		出席
3	金森 剛	相模女子大学人間社会学部 社会マネジメント学科	副会長	出席
4	佐藤 慶一	公募		出席
5	鈴木 敏彦	和泉短期大学児童福祉学科		欠席
6	長野 基	首都大学東京都市環境学部建築都市 市コース・大学院都市環境科学研究科都市システム科学域准教授		欠席
7	林 恵子	公募		出席
8	宮 久美子	公募		出席
9	三好 上次	公募		出席
10	吉田 民雄	総合政策プランナー	会 長	出席